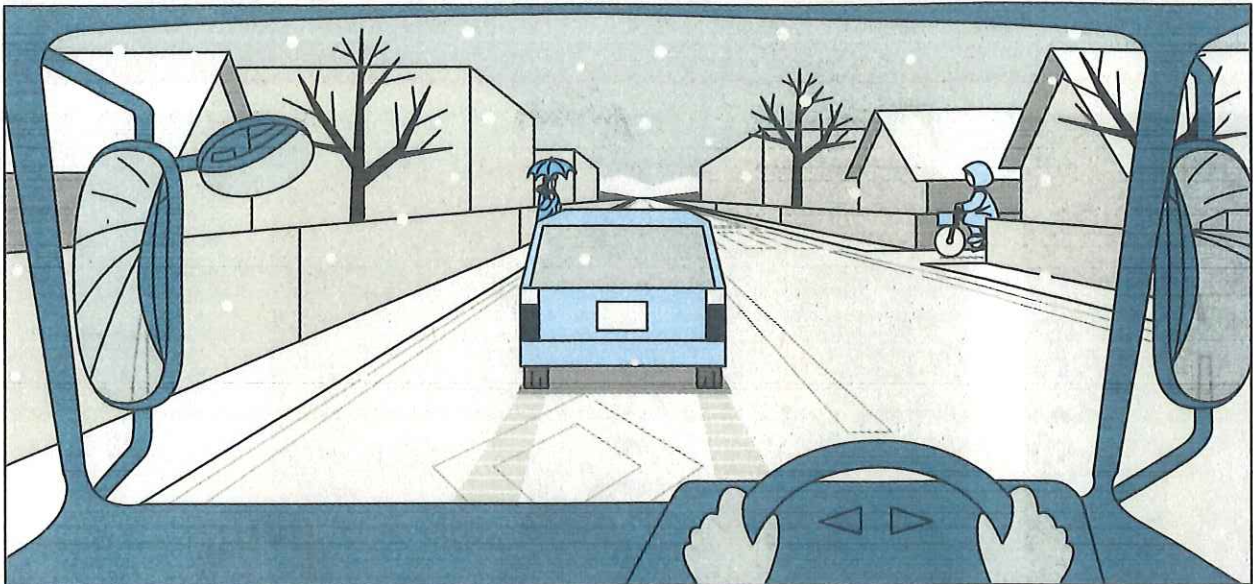


危険予知訓練 (KYT) シート：交通事故防止編 あなたならどうしますか？

〔第 119 回〕「雪が降り始めた道路の走行」

状
況

あなたは雪が降り始めた片側1車線の道路を前車に追従しています。道路にはうっすら雪が積もっています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



◆どのような危険がありますか？

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

危険予知訓練(KYT)シートの解説

▶ 交通事故防止編

あなたは雪が降り始めた片側1車線の道路を前車に追従しています。道路にはうっすら雪が積もっています。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



どのような危険がありますか？

- ①前車が歩行者を横断させるために減速・停止をすると、追突する危険があります(図1)。
- ②前車が横断歩道を通過後に、歩行者が横断すると衝突する危険があります(図2)。
- ③右側の脇道から自転車が横断歩道を渡ってくると、衝突する危険があります(図3)。

どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

- ①歩行者を横断させるために前車が減速したり停止することが考えられますから、「前車についていけば安全だろう」と漫然と運転していると、追突する危険が高まります。特に、この場面のように雪がうっすら積もっていて路面が滑りやすい状態の時は停止距離が長くなるため、前車の減速・停止の発見が遅れると、ブレーキを踏んでも間に合わない恐れがあります。冬道で前車に追従する場合は、前車の前方の様子もしっかり確認し、前車が減速・停止をする可能性がないかどうかを予測するとともに、積雪等によって停止距離が延びる恐れがあることも考慮して、スピードを落として、十分な車間距離をとりましょう。
- ②降雪時は、路面標示が見えにくくなるので注意が必要です。この場面でも「横断歩道又は自転車横断帯あり」を示す路面標示が見えにくくなっていることから、横断歩道や、その付近にいる歩行者に気づかない恐れがありますから注意が必要です。
- ③雪の降り始めは、他車(者)は「早く目的地に着きたい」と考えて安全確認を十分に行わないことがあります。この場面では、前方右側の脇道から出ようとしている自転車がありますが、この自転車が横断歩道を渡ってくると危険な状態になります。「自車が接近しているから、自転車は横断してこないだろう」とは考えず、「もしかしたら横断してくるかもしれない」と考えて自転車の動きに十分目を配りましょ

図1

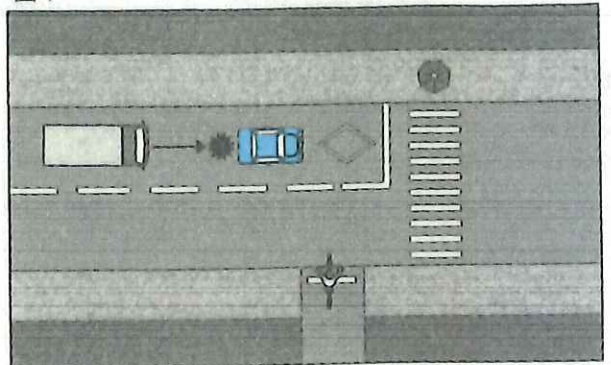


図2

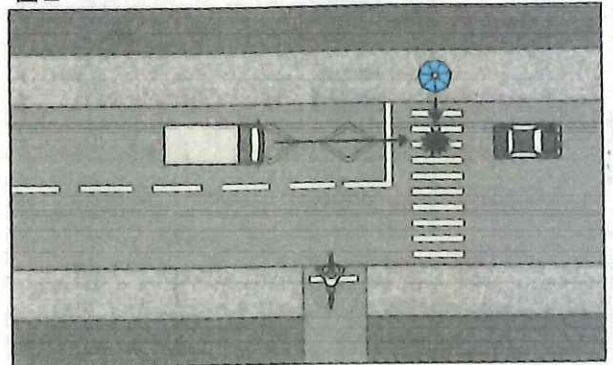
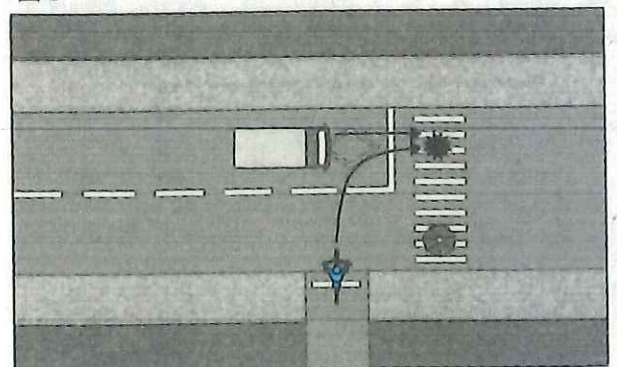


図3



う。なお、横断歩道のある場所では、その付近にたいがい脇道があります。そのことも頭に入れて、横断歩道に接近する時は、脇道から自転車や歩行者が横断してこないのかも確認するようにしましょう。